

授業 科目	CC2G37	1 単位	選択	演習	2 学年 後期	担当 教員	桜井 ますみ
	環境指導法						

授 業 の 概 要	① 子どもの発達における環境の意義や役割について理解する。 ② 保育所や幼稚園において、どのように環境との関わりを援助すれば、豊かな体験を幼児が持つことができるかを学ぶ。 ③ 子どもにとって、望ましい保育環境を構想することができる。
-----------------	--

到達 目 標	到達目標	学習成果Ⅰ			学習成果Ⅱ			学習成果Ⅲ		
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
到達 目 標	① 保育内容「環境」における保育のねらいと内容を理解する。		○		○	○	○	○	◎	○
	② 子どもが成長していく上で、身近な環境との関わりや意義や役割について理解する。		○		○	○	○	○	◎	○
	③ 周囲の環境との出会いによって、子どもの好奇心や探究心が育つよう援助方法を構想できる。		○		○	○	○	○	◎	○

凡例 ◎：学習成果Ⅰ～Ⅲを獲得するために特に重要な目標、○：学習成果Ⅰ～Ⅲを獲得するために重要な目標 査定項目①～⑨はVページ参照

	主 題	準備学習	本時の学習内容と到達目標	復 習
1	オリエンテーション	シラバスを読んでおく	授業の進め方、課題の提出、評価方法等について及び保育における環境についての理解を深める。	授業内容のまとめ
2	幼児教育の基本と目標	教科書 P. 1～P. 9 を読んでおく。	幼稚園教育要領と保育所保育指針の環境と他の領域との関係について理解を深める。	授業内容のまとめ
3	人間の生活と環境	教科書 P. 12～P. 18を読んでおく。	環境の主体と要素、人間の生活と環境との相互作用について及び幼稚園教育要領・保育所保育指針の「ねらい」と「内容」についての理解を深める。	授業内容のまとめ
4	子どもと園の環境	教科書 P. 20～P. 44 を読んでおく。	園において子どもを主体とする物的環境・人的環境・自然・社会環境の関わりについて理解を深める。	授業内容のまとめ
5	環境と子どもの活動	教科書 P. 29～P. 33 を読んでおく。	身近な環境として自然や生き物との関わりと配慮について理解を深める。生物の観察・周囲の自然環境の観察を通して感受性と観察力を養い、多様性・生態、生命等への理解を深める。	授業内容のまとめ
6	子どもと環境の関わり	教科書 P. 36～P. 44 を読んでおく。	子どもの活動（探索、模倣）と保育者の援助と配慮についての理解を深める。	授業内容のまとめ
7	幼児と環境との関わり	教科書 P. 44～P. 54 を読んでおく。	幼児の発達を考慮し、自然や遊具との関わりを通して、保育者の援助と配慮についての理解を深める。	授業内容のまとめ
8	幼児と環境との関わり	教科書 P. 55～P. 64 を読んでおく。	幼児の発達を考慮し、園内の遊具との関わり、飼育栽培について、保育者の援助と配慮についての理解を深める。物の扱いを通して子どもの思考力、積極性等を養う方法への理解を深める。	授業内容のまとめ
9	環境をつくる	教科書 P. 132～P. 148 を読んでおく	領域環境の指導計画と、保育方法について考える。	授業内容のまとめ
10	指導案作成	子どもの年齢を考慮し、制作の指導案の構想を練る	模擬保育のために年齢を考慮し、制作を主活動とする指導案の作成	指導案の確認

1 1	領域環境の変遷	教科書 P.107～ P.112 を読んでおく。	明治時代から太平洋戦争終結、現在に至るまでの保育内容について学ぶ。幼小の接続について学ぶ。	授業内容のまとめ
1 2	指導案作成	子どもの年齢を考慮し、生物との関わりの指導案の構想を練る	模擬保育のための生物の触れ合いや周囲の自然観察を主活動とする指導案の作成	指導案の確認
1 3	プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備	「環境を通して行う教育」についてのプレゼンテーションを考える。	友達のプレゼンテーションについての意見をまとめる
1 4	プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備	自然環境・季節の移り変わり等の環境への視野を広げる。また子どもの関心・意欲を高めるために文字や数がある環境についての理解を深める。	プレゼンテーションについて評価する
1 5	今までの授業の総復習とまとめ	教科書やノートを確認し、授業内容をまとめておく。	保育内容「環境」の現代的課題と環境の評価方法について、自分の理想の保育室と環境設定を考える。	今までの授業内容を全てまとめておく。
成績 評価	受講態度 (20%)、課題提出 (30%)、 テスト (50%) 合計100%			
教員 から の コ メ ン ト	子どもたちの生活や遊びのことで望ましい保育環境は何か、また保育環境をどう構成すれば、子どもたちが興味・関心を持って、発展的に遊べるようになるのかを考察します。保育実習や教育実習においては指導案を作成しなければなりません、この授業も指導案を構想するのにも役立つ授業ですので、子どもたちと楽しく遊ぶ環境構成を普段から考えるようにしてください。天候によっては学内外の環境を知るために、散歩に行くことがあります。			
教科 書	書名 保育内容環境 著者 柴田正行 発行所 建帛社	推薦 図書	書名 平成 29 年告示幼稚園教育要領 保育所保育指こ ども園教育・保育要領 <原本>著者 編集 田 島美穂 発行所 株式会社チャイルド本社 書名 環境構成 編集 岡上直子 発行所 ひ かりのくに	幼保連携型認定

